

◎議 事 日 程（第3号）

令和4年6月8日（水曜日）午前9時30分 開議

日程第1 一般質問（続）

◎本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

◎出 席 議 員（18名）

1番	馬 淵 紀 明 君	2番	佐 藤 旭 浩 君
3番	中 村 文 武 君	4番	河 合 克 平 君
5番	真 野 和 久 君	6番	山 田 門左エ門 君
7番	吉 川 三津子 君	8番	杉 村 義 仁 君
9番	角 田 龍 仁 君	10番	石 崎 誠 子 君
11番	原 裕 司 君	12番	佐 藤 信 男 君
13番	近 藤 武 君	14番	神 田 康 史 君
15番	鬼 頭 勝 治 君	16番	山 岡 幹 雄 君
17番	高 松 幸 雄 君	18番	竹 村 仁 司 君

◎欠 席 議 員（なし）

◎早 退 議 員（1名）

3番 中 村 文 武 君

◎地方自治法第121条の規定により説明のため会議に出席した者の職・氏名

市 長	日 永 貴 章 君	副 市 長	鈴 木 睦 君
教 育 長	平 尾 理 君	教 育 部 長	三 輪 進 一 郎 君
消 防 長	加 藤 義 久 君		

◎本会議に職務のため出席した者の職・氏名

議会事務局長	鷲 尾 和 彦	議 事 課 長	大 原 守 人
書 記	丸 山 小 百 合	書 記	杉 本 昌 哉

午前 9 時30分 開議

○議長（杉村義仁君）

皆さん、おはようございます。

本日は御苦労さまです。

御案内の定刻になりました。

定足数に達しておりますので、ただいまから継続会を開催いたします。

本日の議事日程はお手元に配付のとおりです。

~~~~~ ○ ~~~~~

◎日程第 1 ・一般質問

○議長（杉村義仁君）

日程第 1 ・一般質問を続行いたします。

一般質問は、質問順位に従いまして順次許可することにいたします。

質問順位 7 番の10番・石崎誠子議員の質問を許します。

石崎議員。

○10番（石崎誠子君）

おはようございます。

2 期目、最初の一般質問です。

これからの 4 年間、命をつなぐ、暮らしをつなぐ、人をつなぐ、この 3 つをテーマに市民の声を届けてまいります。市当局におかれましては、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、議長のお許しをいただきましたので、通告に従って、2 つの項目について一般質問させていただきます。

大項目 1 点目、「いのちをつなぐ～市の救急対応は～」から質問いたします。

地元地域の方々から市の救急出動について要望が多く寄せられ、また防災力の強化も含め、私は令和 4 年 3 月議会の一般質問において、大井町地内に県が整備する広域防災活動拠点に愛西市消防本部の職員さんが平時から常駐し、拠点の活用や管理ができるよう、また消防本部から比較的距離が離れている永和地区において迅速な救急対応ができるようにという思いから、広域防災活動拠点の隣接地に消防分署の設置を要望いたしました。

このような経緯から、今回、市民の命を守る、救急出動の現状及び今後の方向性について伺いいたします。

昨日の他の議員の質問と重なる部分が多々ありますが、住民の思いを伝えるべく、予定していたとおりに質問させていただきます。

初めに、直近 1 年間における、佐屋、立田、八開、佐織、4 地区それぞれの救急出動件数をお聞かせください。

次に、新型コロナウイルス感染症による救急出動要請及び救急搬送は具体的にどのくらいあったのかお聞かせください。

次に、総務省消防庁の発表によれば、救急車の出動件数、搬送人員は前年よりも増加しているとのことでありますが、救急車の数には限りがあります。そこで、愛西市における救急車の出動が一番多かった日の出動件数とその要因、また実際に出動が重なった事例とその対応についてお聞かせください。

次に、大項目2点目。

中学校の制服の考え方はと題し、中学校標準服の現状と今後の方向性について質問いたします。

近年、国連が採択した2030年までに達成を目指す国際目標のSDGsでは、ジェンダーの平等が目標の一つに掲げられていることから、女子はスカート、男子はスラックスという決めつけを排除して、誰もが自由に選べるジェンダーフリー学生服を採用する学校が増えてきています。県内で幾つかの中学校においても、機能面で男女による指定を設けないブレザースタイルの制服を導入されていることから、愛西市も制服は変わらないのかと市民の方々からお声をいただくことがあります。

愛西市においては、既に中学校で制服選択制について検討が進められていることをお聞きしましたが、では、中学校の制服選択制検討に至った経緯、また現時点でどのような方向性が示されているのか、併せてお聞かせください。

以上で総括質問を終わります。順次、御答弁をよろしく願いいたします。

#### ○消防長（加藤義久君）

私からは3点御答弁申し上げます。

まず1点目でございます。

令和3年中における地区別の救急出動回数ですが、佐屋地区においては1,306件、立田地区については316件、八開地区については165件、佐織地区については959件です。

2点目のコロナによる救急出動要請や救急搬送の状況はですが、令和3年中の新型コロナウイルス感染者、または感染の疑いがある患者を含めた救急出動要請については189件です。

3点目です。

1日の最多出動回数とその要因は、また実際に出動が重なった事例とその対応はですが、1日の最多出動回数につきましては15件です。特に大きな災害や事故が起こったものではなく、出動要請がこの日に重なったものであります。

急病や交通事故など、様々な事情により出動が重なる場合がございますが、この場合、まずは愛西市消防本部で所有する救急車3台で対応します。救急車3台全てが出動した場合に、さらに出動要請があった場合には、海部地方消防相互応援協定に基づき、市外の他の消防本部から救急車が出動することになっております。以上です。

#### ○教育部長（三輪進一郎君）

私からは、中学校の制服選択制に至った経緯と現時点の方向性を御答弁申し上げます。

世の中が様々変化する中で、学校の制服も変化をしてくれています。生徒を取り巻く環境や生徒の意識、ライフスタイルの変化などから、「自由」「動きやすい」「カッコいい」「温かそ

う」「かわいい」といった生徒や保護者の制服選択制への要望が高まってきています。全国的にもスラックス導入を取り入れる学校が増えてきました。

愛西市小中学校長会では、中学校制服について検討が必要であると考え、令和3年9月に制服検討委員会を発足いたしました。制服検討委員会では、協議を進める中で生徒、保護者、教員を対象にアンケートを行い、その結果を参考にしながら検討を重ねてまいりました。

検討委員会では、令和6年4月より、愛西市立中学校6校全ての新入生、在校生を対象に、期間を定めず、現在の詰め襟学生服やセーラー服に加え、ブレザー等の新形状の制服を選択肢の一つとして導入することが決定されました。以上でございます。

#### ○10番（石崎誠子君）

それぞれ御答弁いただき、ありがとうございます。

それでは、大項目2点目の中学校の制服の考え方から再質問いたします。

先ほどの御答弁によれば、令和6年4月から、愛西市内にある中学校6校全ての制服が従来の詰め襟学生服とセーラー服、そして新たなブレザースタイルが加わって3種類となり、新入生はもちろん、在校生も従来スタイルまたはブレザースタイルかを選択できるようになるということでありました。

そこで、令和3年9月から制服検討委員会で方向性を協議してこられたとのことですが、では、どのようなメンバーで、これまでどのように進めてこられたのか、決定に至るまでの流れや今後のスケジュールについても併せてお伺いいたします。

#### ○教育部長（三輪進一郎君）

当初は、市校長会長と各中学校校長もしくは教頭、愛西市教育委員会からは教育部次長と学校教育課主幹でスタートし、4回目以降は、保護者代表として各中学校PTA母親代表が加わりました。

令和3年9月より検討委員会を開始し、現在までに6回行われております。

第1回から第2回は、基本方針やスケジュール、アンケート内容の検討を行いました。

令和3年11月には中学校の生徒、保護者、教員を対象にアンケートを実施いたしました。

第3回は、アンケート結果を基に新形状制服を追加導入の方向性とすることを決定いたしました。

第4回は、PTA母親代表を交え、新制服の追加導入を正式決定いたしました。

この決定に伴い、2月に市内小学校4年生、5年生、6年生の児童、保護者及び市内中学校生徒、保護者宛てに中学校で使用する制服に関するお知らせ文書を配付しております。

第5回は、メーカー選考に向けての話合いを行い、各社が参入できる併売方式を採用いたしました。

第6回は、メーカー選考会を行い、新しい標準服のマスターメーカーが決定いたしました。

今後は、デザインの決定等を令和4年度内に行い、令和5年春には製品を完成させ、1年後の導入開始へとつなげていきたいと考えております。以上でございます。

#### ○10番（石崎誠子君）

ありがとうございます。

生徒や保護者の制服選択制への要望が高まってきたことから、市内各中学校の校長が中心となり、市教育委員会や保護者代表の方々と協議され、新たな制服を追加導入することが正式決定したとのことでありました。今年度中にはデザインを決定し、来年春には製品を完成させ、再来年、令和6年の春に導入開始とのことでありました。

そこで、生徒や保護者また教員の方々に対して実施したアンケートを基に、新たな制服を追加導入するという方向性が示されたとのことではありますが、アンケートの結果をどのように分析されたのかお伺いいたします。

**○教育部長（三輪進一郎君）**

アンケート2問のうち、1問目として、「現在着用している詰め襟学生服、セーラー服に満足していますか」という問いに対し、「満足」「まあまあ満足」と回答している生徒の割合は69%、保護者は80%、教員は77%でございました。

2問目として、「気候や多様性への配慮から、ブレザーやスラックスなど新しい形状の制服を選択肢の一つとして加えることについて、どのように思いますか」という問いに対して、「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答している生徒の割合は93%、保護者は81%、教員は95%となり、現在の制服に満足しながらも、新形状の制服を望む声が多いという結果が出ました。以上でございます。

**○10番（石崎誠子君）**

ありがとうございます。

現在の制服に満足しながらも、新たな制服を望む声が多かったということでありました。

そこで、新たに導入される制服のデザインは、愛西市内の中学校6校全てが統一のものとなるのか、あるいはそれぞれの学校単位となるのか、またその理由も併せてお聞かせください。

**○教育部長（三輪進一郎君）**

デザインは市内全中学校統一で進めております。ワッペンやボタン、ネクタイ等の附属品で学校の違いを出します。統一の理由は、愛西市立中学校としての一体感や、デザイン代等費用面を考え統一といたしました。以上でございます。

**○10番（石崎誠子君）**

ありがとうございます。

市内の中学校6校全てが統一デザインとなり、ワッペンなどの附属品で学校の違いを出されるということでありました。また、デザイン代などの費用面を考慮し、統一デザインにしたということですが、では、従来の詰め襟学生服及びセーラー服と新たに導入されるブレザーでは費用面で差が出てしまうことはないのでしょうか。

**○教育部長（三輪進一郎君）**

価格や機能性、耐久性は、現行の学生服、セーラー服と同程度とすることとし、保護者の負担増とならないよう留意して検討を進めておるところでございます。以上でございます。

**○10番（石崎誠子君）**

ありがとうございます。

保護者の負担が増えることがないように、現行のものと同程度で検討されているということが分かり、安心いたしました。とはいえ、在校生がブレザーを選ぶには、新たに追加で購入することとなりますので、残された学校生活が快適に過ごせるよう、在校生の購入に対する支援等についてもぜひ御検討いただけたらと思います。

では次に、デザインにつきましては、全国的な事例として、生徒による投票やアンケートでデザインを決定した学校もあると聞いています。近隣自治体の導入状況やデザインの決定方法などはどのようになっているのでしょうか。また、愛西市は今後どのようにデザインを決定されるのかお伺いいたします。

#### ○教育部長（三輪進一郎君）

近隣自治体でございますが、導入しているのは、大治町が令和3年度から導入し、あま市では令和3年度に三輪中学校、令和4年度からはあま市の残り4校で導入しています。

津島市と弥富市が令和6年度からの導入を予定しており、蟹江町と飛島村は検討中であることを確認しております。

デザインの決定に関しては、大治町はデザイン案を生徒から募集し、児童・生徒によるアンケートで決定、あま市におきましては児童・生徒による投票で決定と聞いております。

愛西市におけるデザインの決定方法については、現時点では未定となっております。以上でございます。

#### ○10番（石崎誠子君）

ありがとうございます。

愛西市ではデザインの決定方法については、まだ未定ということでもあります。

昨日の中日新聞の朝刊に、江南市立中学校の新制服の記事が掲載されておりましたが、来年4月に導入される新制服の胸ポケットにつけるエンブレムのデザインを各学校で生徒に募集したということでありました。このように、生徒にデザインを考えてもらうことで、より一層新しい制服にも愛着が沸くのではないかと思います。ぜひ新しい制服のデザインにも生徒さんの声が反映されるよう期待しております。

では、最後にお伺いいたします。

令和6年4月の導入に向けて、これから周知を図っていかれるかと思いますが、この制服選択制について課題があればお聞かせください。

#### ○教育部長（三輪進一郎君）

制服選択制を導入する理由がジェンダーレスや性の多様性への配慮と受け取られてしましますと、逆に生徒さんたちの心理的負担となることが心配されます。

気候変化対策や動きやすさなどの利便性といった理由も示すことで、自分に合ったものを選ぶという環境づくり、どれを選んでもいいという意識を生徒の皆さん一人一人に持っていただくことが大切であると考えております。以上でございます。

#### ○10番（石崎誠子君）

ありがとうございます。

この制服選択制導入の背景には、LGBTQといった性的マイノリティーへの配慮があると大きく報道されたことから、女子生徒はスラックスを選ぶイコール、トランスジェンダーだと受け取られやすく、スラックスを選びたくても周囲の目が気になって、女子のスラックスの着用が進まないということが全国の学校でも課題となっているようです。御答弁いただきましたように、利便性といった理由でスラックスを選択しているということを生徒の皆さんが認識できるような環境づくりをお願いいたします。

また、夏場には機能性や利便性の点から、標準服にポロシャツも選択肢の一つに加えていただきたい、考えていただきたいと思います。

誰もが自分の気持ちに合ったものを選べる、どれを選んでも大丈夫という人それぞれの思いを尊重できる教育や、人と違うものを選ぶことがちゅうちょなくできる社会となるよう、私たち大人も協力をしていくことが必要になっているのではないのでしょうか。今後このようなことも踏まえ、出てくる課題に対し市でできるサポートをしていただき、子供たちが伸び伸び成長し、誰もが自分らしく生きられる愛西市となることを願い、次の項目に移ります。

では次に、大項目1点目、市の救急対応の再質問をいたします。

先ほどの御答弁で、令和3年度中の佐屋、立田、八開、佐織、4地区の救急出動の状況については分かりました。

4地区の出動件数を合計すると2,746件で、単純に365日で割ると1日に平均7.5件もの救急事案に対応されている状況や、その倍に当たる15件が最も多く出動した日の件数であることも分かりました。

また、新型コロナウイルス感染症に関わる出動が年間189件ということで、報道などによりますと、隊員や救急車の感染防止対策をするために、現場到着まで通常よりも多く時間がかかることや、搬送先の病院がなかなか決まらず、医療機関受入れまでに時間がかかることなど、対応に苦慮したとありました。

このような時間がかかる要素はありますが、では実際に、現場到着時間と医療機関受入れまでの所要時間はどのくらいなのか、愛西市と全国、それぞれの平均時間をお聞かせください。

#### ○消防長（加藤義久君）

全国の状況につきましては、令和2年中のデータとなりますが、通報から現場到着までの所要平均時間は8.9分、医療機関受入れまでの所要平均時間は40.6分です。

また、愛西市消防本部の状況につきましては、令和3年中のデータとなりますが、通報から現場到着までの所要平均時間は9.6分、医療機関受入れまでの所要平均時間は36.1分です。

なお、海部地域の状況は、5消防本部平均しますと、通報から現場到着までの所要平均時間は8.8分、医療機関受入れまでの所要平均時間は36.7分です。以上です。

#### ○10番（石崎誠子君）

ありがとうございます。

比較した年は違いますが、医療機関受入れまでの所要時間の平均は全国平均よりも約

4分も早いというのは、隊員の方々の日頃の努力のたまものだと思います。

そこで、通報から現場到着までの所要時間は全国平均よりも少し遅いと感じますが、その要因を踏まえ、何か対策は考えられているのでしょうか。

#### ○消防長（加藤義久君）

隣接する津島市や蟹江町と愛西市の面積を比較しますと、津島市が25.09平方キロメートル、蟹江町が11.09平方キロメートル、愛西市は66.68平方キロメートルと管轄する範囲が広いため、現場到着までの所要平均時間が全国に比べると遅い状況にはありますが、現場到着後、医療機関受入れまでの時間短縮に努めていることもあり、通報から医療機関受入れまでの所要平均時間は全国に比べて早い状況となっております。

また、海部地域の状況は、愛西市消防本部における通報から医療機関受入れまでの所要平均時間が36.1分、蟹江町消防本部では41.8分、津島市消防本部では37.1分、海部東部消防本部では36.6分、海部南部消防本部では32分となっております。

愛西市消防本部では、119番通報の受け方や隊員への情報伝達方法を工夫するほか、出動する道順の把握を日常的に行うことで、現場到着までの時間短縮に努めるだけでなく、現場へ移動中の救急隊員が通報者宅へ直接電話して情報収集し、その情報を医療機関と共有することで、医療機関受入れまでの時間短縮にも努めているところです。今後も、こうした取組を進めていきたいと考えております。以上です。

#### ○10番（石崎誠子君）

ありがとうございます。

一刻を争う救急現場において、医療機関受入れまでの時間短縮につながる様々な取組や日頃のたゆまぬ努力に心から感謝申し上げます。今後も引き続きその精度を上げていただきますよう、よろしく願いいたします。

では引き続き、現場到着時間についてお伺いいたします。

私の地元の永和学区では、他の地区に比べ、消防署から遠距離に位置していることから、救急車が現場に到着するまでに時間がかかっているのではないかと住民は感じております。

過去に、永和台団地で救急車到着までに約20分近くかかってしまったという事案があったと伺っておりますが、これはどのような要因があったのでしょうか。また、このような状況について、消防署として具体的にどのような対策をされているのでしょうか。

#### ○消防長（加藤義久君）

通報から現場到着までに20分以上かかる事案はあまりありませんが、この地区で現場到着までに20分近くかかってしまった事例は、消防本部に配備している救急車2台が別の救急事案にそれぞれ出動し、消防分署に配備している救急車が現場に向かったことが要因であると推察されます。

こうした事例が生じた場合であっても、現場への移動中における情報収集や医療機関との情報共有などにより、医療機関受入れまでの時間短縮に努めているところです。以上です。

#### ○10番（石崎誠子君）

ありがとうございます。

消防本部にある2台の救急車が出動中だったため、永和地区から距離がある佐織の鷹場町に位置する消防署分署に配備の救急車で向かったことが要因として考えられるということでありました。

そこで、初めからより近くにある市外の消防署から直接救急車に来てもらうことはできないのか、そのほうが早く到着できるのではないかという住民の声も多く聞こえています。このような、管轄外の消防署から直接出動を可能とするような協定を結ぶことはできないのでしょうか。

#### ○消防長（加藤義久君）

海部地方消防相互応援協定では、愛西市消防本部が所有する救急車で対応できない場合に、市外の消防本部から応援をお願いすることになっております。

個別に協定を締結することは考えておりませんが、各消防本部においても、通報から現場到着まで時間を要する問題は抱えており、救急車や消防車が全て災害出動した場合は、海部地方消防相互応援協定により災害対応しています。

また、消防広域化を見据え、災害場所から一番近い消防署が出動できるよう検討を進めています。以上です。

#### ○10番（石崎誠子君）

ありがとうございます。

個別に協定を締結するのではなく、広域化を見据え、管轄に関わらず一番近い消防署から出動できるよう検討を進めていかれるということではありますが、では、永和地区のほかに、市内には救急車の到着に時間を要する地域はあるのでしょうか。

#### ○消防長（加藤義久君）

永和地区の善太新田町、鯛江町、大野町では、通報から現場到着までの所要時間が平均で13分から14分となっております。この地域と同じくらいの所要時間となっている地域として、勝幡町、古瀬町、千引町、佐折町、諸桑町があり、この地域の平均所要時間は12分から13分となります。以上です。

#### ○10番（石崎誠子君）

ありがとうございます。

救急車到着までに時間を要する地域は、永和地区だけではないということでありました。

そこでお伺いいたします。

住民の皆さんの思いとして、より早く救急車が到着できるよう、永和地区をはじめ、必要とされる地域に消防署の出張所を造っていただけたらと思いますが、市の見解をお聞かせください。

#### ○消防長（加藤義久君）

ほかの消防本部の状況から考慮しても、愛西市消防本部として、現在の人員、車両などにより対応可能であると考えております。以上です。

○10番（石崎誠子君）

ありがとうございます。

医療機関受入れまでの時間を短縮することで現場到着までの所要時間をカバーするなど、消防の皆さんの日頃の御努力によって現在の人員、車両で対応が可能となっているということは大変ありがたいことではありますが、より近い場所にといい住民の思いもあります。出張所を設置するとなると予算も必要になりますし、一度や二度提案しただけでは実現可能な要望ではないことも承知しております。

今回は時間だけに注目して質問しましたが、実際、私は永和地区で生まれ育ち、今も生活しております。永和地区内それぞれの地域で生の声をよく耳にし、地域の方々の不安なお気持ちを肌で感じています。住民の皆さんには、今以上に安心して暮らしていただきたいので、諦めずに今後も引き続き要望や提案をしまいいります。ぜひ御検討いただけますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

今回、管轄に関わらず一番近い消防署から救急車に来てもらうことはできないのか、また現場活動を行う消防隊、救急隊のみを配置する出張所を遠隔地となる地域に配置することはできないのかという質問をしまいいりました。

最後に、これまでの御答弁を踏まえて、改めてお伺ひいたします。

救急車がより早く到着するための方策はほかに何かあるのでしょうか。

○消防長（加藤義久君）

海部地域と名古屋市、瀬戸市、尾張旭市が一体となって、指令の共同運用を令和7年4月から開始する予定です。

現時点では、指令の共同運用のみではありますが、将来的には車両の運用を含めた広域化が必要であると考えております。

市消防本部としましては、市民の皆様に安心して愛西市で生活していただけるよう、現在実施している広域化勉強会においても、直近の消防署が出動できるように、今後も継続して協議してまいいります。以上です。

○10番（石崎誠子君）

ありがとうございます。

救急車を呼んだときに、自宅から一番近くにある消防署の救急車が別の事案に対応していれば、そこよりも遠くの消防署から救急車が駆けつけることになるかと思ひます。

また、市内にある3台全てが出動中であれば、応援協定によって市外の消防署に配備の救急車が駆けつけてくださいますが、市外で一番近い消防署の救急車も出動中であれば、それよりも遠いところから救急車が駆けつけることになるかと思ひます。ですから、市内どこの地域にいても、タイミングによっては遠隔地になり得る可能性があるということ、どこが遠くてどこが近いという簡単な話ではないということも、もちろん理解しております。ですが、現状、少しでも近い場所に救急車をという住民の皆さんの切実な思ひがある、そのことも御理解いただきたいと思ひます。

まだまだコロナも終息しない中、高齢化により、今後ますます救急出動の要請が増えることが懸念されます。御答弁いただいたように、広域化に向けて今後検討を進めていかれる中で、一番近い消防署から出動できる運用についても引き続き協議していただくとともに、海部地域全体で考えたときに、どの消防署からも距離がある地域については、出張所の設置も視野に入れて協議を進めていただくことをお願いいたします。

また、冒頭にも申し上げましたが、できれば防災力強化の観点からも、広域防災活動拠点に消防職員さんの常駐の件も含めて検討していただくことを切にお願いいたします。

日頃より、市民の命を守り、命をつなぐ最前線で努力し、頑張ってくださいっている消防の皆さんに心からの敬意を表し、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

**○議長（杉村義仁君）**

10番議員の質問を終わります。

ここで休憩を取らせていただきます。再開は10時20分といたします。

午前10時07分 休憩

午前11時11分 再開

**○議長（杉村義仁君）**

休憩を解きまして会議を再開させていただきます。

今日は、これにて休会をいたしますので、よろしくをお願いいたします。

午前11時13分 散会

